

08年8月5日市警ニュース

JSS和訳

「時間をかけて確認－Take Time to Check（訳者注、略称 TTC は市交通局の通称でもある）」運動の結果は落第だった

7月21日、市警は市交通局と共同して「TTC－時間をかけて確認」運動を開始した。この運動では、市内の公共交通車両の交通安全に関する関心を高めることに注力した。

これまでの運動での、啓蒙と関心を高める努力にもかかわらず、市警が発行した違反警告書は、昨年に比べて大幅に増加している。

「今年すでに34人に達した交通事故死亡者の中で17人は、遺憾ながら歩行者であった。すべての人が正しく道路を使用し、交通安全のために意を払うようになって欲しい。便利で安全な公共交通網と道路を、市民の誰もが享受できるようにしなくてはならない。皆の力をあわせることだけが、交通によってもたらされる悲劇をなくする道なのだ。」と、交通部の Len Faul 副総監は語っている。

この運動中、係官は以下を含む 3,975 枚の交通切符を発行した。

- ・ 乗り合い専用車線 (High Occupancy Lanes) の禁止時間内使用: 1,452
- ・ 公共交通車両の進行を妨げる進行方向変更を行ったドライバー: 1,326
- ・ 路面電車の乗降車口が開いている間の車側通過: 54
- ・ 赤信号時の交差点に残留: 185
- ・ TTC 路線上の駐停車禁止区域で駐停車:

1,321

ちなみに、2007年に発行された警告書は2,790であった。

ドライバー、自転車利用者および歩行者は、交通安全はすべての人の責任であることを忘れてはならない。市内の道路の安全のために、それぞれの責任を分担しよう。

「TTC－時間をかけて確認」に関するさらに詳しい情報は Tim Burrows 警部 (電話 416-808-1920) に問い合わせられたい。

JSS 説明

日本に比べて格段に自動車社会である当地で生活する多くの人々にとって、自動車は必需品であり、その利用頻度は大幅に高い。一方で路面電車の停留所などが路面そのものを使用しているなど、必ずしも安全対策が、実情に合わせて行き届いていない部分もまま見受けられる。

こういった状況の中で、自分はもとより、人に危害を加えないように、安全を確保することは、道路利用者が遵守すべき最低のルールであると言える。それを体現しているのが道路交通法規であるが、これが遵守されていないことは、悲しいことながら現実でもある。

この記事は、公共交通網にかかわる交通安全運動に関するものだが、特に不慣れた社会で生活する場合、交通法規はもとよりそのほかの多くのルールをしっかりと認識し、それを遵守することは当然の義務である。また、社会の実情に合わせた安全策をとり、被害を未然に防ぐことも忘れてはならないことだ。

些細な原因で悲惨な事故が起きるのは、交通事故の常であり、法規の遵守はもとより、

法規外でも常識に応じた道路の利用を心がけることは、自他を問わず「安全」のための鉄則である。

ちなみに、筆者が見聞きしている日本と当地の違いには以下のようなものが含まれる。

- 日本の対面交通は当地の常識ではない。
- 当地の多くの交差点では、常時右折可である。
- 横断に際して安全の確認は共に常識だが、当地では歩行者による、ドライバーとの「目あわせ」が強調されている。
- 全シートのベルト着用が義務付けられている。
- 動物などの直前横切りで、特に冬季には急ブレーキは禁物。